

## ・ 受援力を高めよう ・

地震、大雨などの災害により、被災地となった場合には、ボランティアを受け入れる立場となります。

ボランティアの支援を活かすためには、被災地側の「**受援力** (じゅえんりょく)」が重要です。

※受援力とは、ボランティアを地域で受け入れる環境・知識などのことです。

## 1 ボランティアを地域で受け入れる

大きな災害になればなるほど、地域内の助け合いだけでの復興には、時間がかかり負担も大きくなってしまいます。

発災後に駆けつけてくれるボランティアは、被災された方々への支援や、被災地の復興に大きな力を発揮してくれます。

ボランティアの力を引き出すためには、地域のみなさんの協力も必要となります。

## ・ ボランティアと地域のパイプ役に！ ・

ボランティアの多くは、地域の外から来られる方なので、土地勘がありません。また、初めはボランティアを受け入れることに不安を抱く住民もいます。そういった時

に、地域の実情をよくご存知の方に、活動場所への案内や、依頼者との顔つなぎなどをしていただくことが、住民の安心感につながり、ボランティアも活動しやすくなります。



## 2 ボランティアを依頼しよう!

まずは、災害ボランティアセンター（P4参照）に相談してみましょう。ボランティアにお手伝いをお願いする際には、どこで誰が何に困っているかなどの状況を、できるだけ具体的に災害ボランティアセンターに伝えていただくことが大切です。

### ・ 依頼の方法 ・

地域の被害状況や、必要とする支援内容などの情報を収集し、支援依頼を災害ボランティアセンターへすると、日程や人数などを調整のうえ、ボランティアがお手伝いに来てくれます。

依頼の方法は、

- ①地域のリーダーの人たちが  
地域単位で取りまとめて  
依頼する
- ②広島市社会福祉協議会の  
ホームページや配布チラシ  
などを見て個人で依頼する

などがあります。



### ポイント Note

#### こんな人には注意!

ボランティアは、以下のことは求めません!

- ・ 活動後のお金の要求、お金の貸し借りなど
- ・ 活動往復に必要な交通費、食事、宿泊先の要求
- ・ 作業に必要な資器材の購入の強要 など

↳ このようなことがあった場合は、警察や  
災害ボランティアセンターに相談しましょう!

**・ 気持ちが一番！**

ボランティアは原則として、被災地に負担をかけないように準備をします。食事・宿泊場所などの提供や報酬等も必要ありません。道具の貸し出し等も基本的に災害ボランティアセンターが行います。困ったときはお互い様なので、気持ちよくお手伝いしてもらいましょう。もちろん感謝の心を忘れずに。

**・ ボランティアを依頼する際の留意点**

ボランティアは日中に活動しますが、天候が悪いときなどは活動できないことがあります。また、土日は人数が集まり、作業が進みやすい傾向があります。

ボランティアは自発的な活動ですので、ボランティアの人数が少ない場合などはすぐに対応できないことがあります。

ボランティアは原則として、「ボランティア活動保険」に加入していますが、危険なところでの活動はさせないなど地域としても留意する必要があります。

### 3 受援力を高めよう！

**・ 地域の情報を整理しよう**

地域の危険箇所のチェックや、マップづくりをするなど地域の情報を整理しておけば、ボランティアの受け入れの際に役立てることができます。

**・ 災害に関する研修や訓練に参加しよう**

災害に関する研修を行政やNPO団体が開催することがあります。また、区社会福祉協議会が、災害ボランティアセンター設置・運営の訓練を行う場合があります。これらの研修や訓練に参加し、地域内でお互いに顔見知りになったり、ボランティアについて理解を深め、受け入れ方法を身につけましょう。

## 顔のみえる関係づくり

地域の様々な団体などとのつながりをつくっておきましょう！また、となり近所で助け合える関係をつくりましょう。（地元の社会福祉協議会、町内会、自主防災会、民生委員・児童委員、地域の団体や区役所など）



### Note

#### 平成26年広島豪雨災害では…【安佐北区大林地区の取り組み】

平成26年広島豪雨災害では、町内会や自主防災会を中心とする地域の皆さんによる様々な助けがありました。

安佐北区大林地区では、被害の状況や被災者宅の情報などを収集するため、自主防災会会長が、発災後すぐに各自治会長経由で住民の安否確認を行うとともに、どんな支援が必要なのか、ニーズの把握・とりまとめを行いました。

また、地域の方が安佐北区災害ボランティアセンターから送り出されたボランティアを活動場所へ案内したり、活動後にボランティアから活動状況の報告を受け地域全体で情報を共有されました。

さらに、日々のボランティアや資器材の必要数などについて、災害ボランティアセンターと頻りに連絡をとりながら調整を行いました。

まさに、地域の皆さんが大いに受援力を発揮して、ボランティアと被災地をつないだ事例といえます。

(参考文献)

地域の受援力を高めるために（内閣府）

名古屋市災害ボランティア活動ガイド（名古屋市社会福祉協議会）

災害ボランティアハンドブック やまぐち版（山口県社会福祉協議会）

全国社会福祉協議会ホームページ

区災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル標準例（広島市（区）社会福祉協議会）

ボランティアガイドブック（広島市社会福祉協議会）

(参考URL)

「内閣府（防災ボランティア）」<http://www.bousai-vol.go.jp/info/>

「広島市社会福祉協議会」<http://shakyo-hiroshima.jp/>

「広島市」<http://www.city.hiroshima.lg.jp/>

「全国社会福祉協議会」<http://www.shakyo.or.jp/>



## 災害ボランティアハンドブック

---

登録番号 広G1-2016-412

発行 平成29年1月

発行者 広島市

社会福祉法人広島市社会福祉協議会

連絡先 社会福祉法人広島市社会福祉協議会

ボランティア情報センター

〒732-0822

広島市南区松原町5番1号（広島市総合福祉センター内）

TEL：（082）264-6408

FAX：（082）264-6416